

令和4年度スポーツ庁委託事業
障害者スポーツ推進プロジェクト
(特別支援学校運動・スポーツ活動促進等事業)



一般社団法人徳島県サッカー協会

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、一般社団法人徳島県サッカー協会が実施した令和4年度スポーツ庁委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト」（特別支援学校運動・スポーツ活動促進等事業）の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

目次

I. 事業概要.....	1
1. 事業目的	
2. 実施概要	
3. 事業の効果	
4. 今後の課題	
II. 実行委員会.....	4
1. 実行委員会名簿	
2. 会議	
III. 事業内容.....	6
1. 特別支援学校サッカー部創設事業	
2. ピアサポートサッカー交流事業	
3. 地域で支える交わるサッカーをととした居場所創設事業	
IV. アンケート.....	14

I . 事業概要

I 事業概要

1. 事業目的

平成28年より、全国組織として、日本障がい者サッカー連盟が始動し、障がいの有無に関わらず、誰もがサッカーを楽しめる機会が少しずつ進んでいることから、本協会でも、障がい者サッカー大会への支援や他県との情報交換を図り、障がい者が地域でサッカーを楽しめる環境整備を進めてきたところである。

令和3年度からは、関係団体の協力を得て、本協会にインクルーシブ委員会を設置し、障がい者サッカーへの取り組みを進めており、これまでの取り組みを通して、ソーシャルフットボールとデフサッカーの代表合宿を本県で開催することができ、サッカーを通して目標を持ち生涯、スポーツを楽しむことができることを実感することができたところである。

今後は、県内のサッカー活動を拡充し、県内の特別支援学校生徒が放課後や休日に、サッカーを楽しめる環境と障害種別を問わずサッカーを通して交流を図ることで支援学校卒業後もサッカーを楽しめる環境整備を進める。

また、県内の支援学校では、一般校で行っているような単独競技の部活動が少なく、生徒がスポーツを楽しむ練習の成果を試す機会が失われている現状である。そこで、当協会では、全国障害者スポーツ大会の正式種目である「知的障がい者サッカー」のチームを育成することで、スポーツを通して、仲間と共に目標に向かい、達成感を得られる機会を持ってもらいたいと考える。

2. 実施概要

本県では、支援学校の生徒は一般校の生徒より、通学距離が長いことが多く、近隣に同級生がいなかったため帰宅後に同級生と交流を図る事ができない状況である。そのため、放課後の過ごし方を豊かにする可能性が損なわれている。本県の人口と、支援学校の規模を鑑みて、1校での部活動の創設は難しい状況であるため、2校での合同練習を想定し実施。

(1) 対象地域・特別支援学校の運動・スポーツ活動に係る基本的な情報

- ① 県内支援学校の部活動の状況：聴覚支援学校→卓球部
- ② 板野支援学校、国府支援学校、池田支援学校美馬分校、みなと高等学園→スポーツ部(大会等が開催される競技を重点的に指導している)
- ③ 県内障がい者サッカーチームの活動状況→ソーシャルフットボール1チーム

(2) 課題

- ① 学校間の移動と、生徒の送迎のための車両の確保
- ② 安定的な練習グラウンドの確保
- ③ 支援学校への指導者の派遣
- ④ 保護者への周知
- ⑤ 継続してサッカーをするためのモチベーションの維持

これらの課題から、定期的な練習会の開催と、プロサッカーチームからの指導者の派遣や、他障害サッカー経験者との交流など、生徒がモチベーションを保ちサッカーに取り組める環境を整備する必要があると考え以下の事業を実施した。

- (1) 特別支援学校生徒が放課後や休日にサッカーを楽しめる機会をつくる
「特別支援学校サッカー部創設事業」

(2)障がい種別に関わらずサッカーを通して交流する機会をつくる。

「ピアサポートサッカー交流事業」

(3)特別支援学校生徒が生涯サッカーを楽しめる場所をつくる。

「地域で支える交わるサッカーをととした居場所創設事業」

3. 事業の効果

この事業により、生徒のスポーツの機会を促進できたことはもちろんのこと、家族、学校外の人との交流はソーシャルスキルの向上にも繋がった。また、特別支援学校では保護者の交流が少なく情報を共有する機会も少なかったが、サッカー練習会をとおして保護者の交流ができ、ピアサポートとなる関係性を築くことができた。

(1)短期目標

① 定期的な練習会の実施

② 他障がいチームとの練習試合の実施

③ 徳島ヴォルティスによる「インクルーシブサッカー交流会」の開催

(2)中・長期的な目標

① 2023年度:全国障がい者スポーツ大会中国・四国ブロック大会「知的障がい者サッカー」出場

② 支援学校生徒以外の障がい者も含めた、徳島県知的障がい者サッカー徳島県選抜チームの結成

実施前に、これらの目標を立てていたが、既に支援学級の生徒や卒業生もチームに加入し、支援学校以外のメンバーを加えたチーム作りも達成できた。何より練習後の片付けのスピードと正確さは練習開始時に比べ格段の違いがある。

これらの事から、障がい者スポーツがもたらす効果は体力の維持、増進だけでなく、様々な効果が期待できる。

4. 今後の課題

引き続き、放課後、休日に支援学校の生徒等がスポーツのできる環境になるよう今ある社会資源を把握し、様々な関係団体等の協力も得て、多くの居場所をつくり、生涯スポーツの出来る環境を整備できるよう、できる限り、様々な活動に参加し、地域との繋がりを強固にする事で、選手がレベルに合わせ、県リーグチームへ加入、普通校サッカー部への加入、地域の障がい団体チームへの加入、サッカー以外のスポーツへも繋がるように地域の特性や社会資源を把握し、生涯スポーツを楽しめる環境作りに取り組みたいと考える。

Ⅱ. 実行委員会

II. 実行委員会

1. 実行委員会名簿

	名	所 属
1	岡崎 恵	徳島県精神保健福祉協会
2	青木 茂樹	日本ろう者サッカー協会
3	柘植 竜治	徳島ヴォルティス
4	村岡 英治	徳島県サッカー協会
5	新井 完	徳島県立国府支援学校
6	藤本 浩司	徳島県立板野支援学校
7	和泉 岳	放課後等デイサービスいつもここから
8	遠藤 恭弘	徳島県障がい者スポーツ協会
9	秋山 健太	徳島県作業療法士会
10	松尾 久美子	徳島県サッカー協会

2. 会議

① 第1回実行委員会

日程:令和4年8月3日

会場:県立障がい者交流プラザ

内容:選手のレベル分けをして練習内容を検討

② 第2回実行委員会

日程;令和5年1月18日

会場:県立障がい者交流プラザ

内容:練習試合の実施、次年度の取組についての協議

Ⅲ. 事業内容

III. 事業内容

1. 特別支援学校生徒が放課後や休日にサッカーを楽しめる機会をつくる

「特別支援学校サッカー部創設事業」

特別支援学校の生徒が、放課後、休日等に、定期的な練習会を開催し、令和5年度開催予定の「全国障がい者スポーツ大会中国・四国ブロック大会」知的障がい者サッカー」への出場を目指す。

① 選考会の開催

対象選手を選ぶために、県内全特別支援学校にリーフレットを送付し事業実施前に選考会を開催した。放課後、休日の開催になるため、保護者等のサポートが必要となることから、家庭環境や、個人の障害等の特性を把握し、どのようなサポートが必要であるかを確認した。また、選手の体力レベルがどの程度であるかを把握するためにスポーツテストを実施した。

(ア) スポーツテスト

実施者：理学療法士、作業療法士、徳島ヴォルティスコーチ、サッカー協会役員
内 容：ボールタッチ、反復横跳び、10分走

(イ) 特性の把握

実施者：言語聴覚士
内 容：服薬の有無、障害特性、家庭環境等



② 練習会

(ア) 指導者

尾形 裕 (石井中学校サッカー部外部コーチ、元徳島ヴォルティスサッカースクールコーチ)

滝下 公規 (公益財団法人日本パラスポーツ協会の「公認障がい者スポーツ初級障がい者スポーツ指導員養成講習会」を受講したソーシャルフットボールの選手)

石見 和俊 (ソーシャルフットボールチーム監督)

(イ) 練習会場

徳島県立障がい者交流プラザ、徳島県立国府支援学校 等

(ウ) 練習時間

平日15:30～17:30の間で90分休日は施設利用時間によって10時から18時までの間で90分

(エ) 練習会場への移動について

ジャンボタクシー、シルバー人材センター職員による送迎、保護者の送迎等

(オ) 練習参加者数

回	日程	参加生徒数	回	日程	参加生徒数
1	7月6日	14名	18	12月14日	中止
2	7月23日	16名	19	12月21日	中止
3	8月3日	15名	20	1月11日	11名
4	8月10日	13名	21	1月18日	12名
5	8月17日	11名	22	1月22日	6名
6	8月24日	中止	23	1月25日	中止
7	8月31日	12名	24	2月1日	16名
8	9月4日	16名	25	2月8日	13名
9	9月21日	10名	26	2月12日	15名
10	9月28日	13名	27	2月22日	16名
11	10月5日	14名	28	2月25日	15名
12	10月12日	9名	29	3月5日	13名
13	10月26日	12名	30	3月11日	19名
14	11月3日	19名	31	3月15日	13名
15	11月16日	12名			
16	11月30日	12名			
17	12月7日	12名		合計	359名



新型コロナウイルス感染症の影響で、予定してきた練習会が4回中止となったが、大会、イベントへの参加を含めたら30回以上の開催ができた。練習会ではサッカー未経験の生徒が大半で、当初はボールを蹴ることもできませんでした。そのため、半年は体育館でフットサルボールを使用して、ボールを蹴る、止めるから始めた。

3ヶ月経過後からは、ボールを運ぶことが出来だし、1月頃には、大半の生徒が上手にドリ

ブルでボールを運ぶことができるようになりました。また、会場設営も生徒が主体となって準備をし、モップ掛け等は4名一組になって隅々まで丁寧に掛けることができていた。スポーツだけでなくスキルの上昇が見られた。高等部の生徒が、中学部の生徒のサポートをするなど、支援学校では難しい、異学年交流が自然とできたことも良い効果となった。

また、医療、福祉関係者が関わっていることで保護者の相談にも対応でき、日々の生活や卒業後の進路等についての相談などもあり、相談機関としても役割を果たした。



③ 練習試合

日程: 令和5年2月25日

会場: 吉野川南岸グラウンド

対戦相手: アレックス(徳島県内クラブチーム)

内容: 初めての練習試合のため、ハーフコートで10分ハーフの試合を実施。

それでも、普段の練習と違い、広いコートを走り回りましたが、体力もかなり付いてきたようで、最後まで全員が試合に参加できた。



④ 大会等への参加

(ア) 全日本知的障害者サッカー選手権 中国・四国地区大会

日程: 令和5年1月15日

会場: 今治市営スポーツパーク サッカー場

参加者数: 6名

練習会に参加する生徒の中から6名を選抜し大会に参加した。

(イ) 【西日本地区】2023 地域トレセン対抗戦

日程: 令和5年2月10日、11日

会場: 関西医療大学グラウンド

(ア)に参加したメンバーから2名の選手が中国・四国トレセンのメンバーに選出され、出場した。



(ウ) 姫路パラフットボールフェスティバル

日程: 令和5年3月11日

会場: ダイセル播磨光都サッカー場

参加者数: 19名

練習試合の一環として大会に参加した。初めての試合でしたが1勝する事ができた。県外の遠征も初めての生徒もいましたが、良い環境でサッカーできチームワークも更に強くなったようであった。このような様々な経験を積むことが、障がい児・者にとって大変意味のあることである。



⑤ 練習会参加定着率

3ヶ月以上定着率95%(21名/22名)

実施日数(全27回):20回以上参加者11名、15回以上参加者2名

2. 障がい種別に関わらずサッカーを通して交流する機会をつくる。

「ピアサポートサッカー交流事業」

県内で活動をしているソーシャルフットボール選手との練習会の開催。

① 日程:令和4年11月5日

会場:徳島県立障がい者交流プラザ体育館

参加者:44名

② 日程:令和4年11月23日

会場:徳島県立障がい者交流プラザ体育館

参加者:18名



ソーシャルフットボール四国選抜メンバーと知的障害者サッカー選抜メンバーによる交流練習会を開催した。レベルの高い練習ができ、参加したメンバーから満足したとの反応が得られた。また、ソーシャルフットボール選手が兄的な存在となってコミュニケーションをとることで最初から緊張する様子もなく参加できていた。他障害で年齢の枠を超えた関わりができることは、支援学校の生徒にとって居心地の良さを感じられたようである。卒業後にサッカーを続けるためにも、地域での居場所を創ることは重要であり、そのための繋がりを創る良い機会となった。

3. 特別支援学校生徒が生涯サッカーを楽しめる場所をつくる。

「地域で支える交わるサッカーをとおした居場所創設事業」

障害の有無にかかわらずサッカーを通して交流し、支援学校卒業後も参加できる居場所となるように、徳島ヴォルティス所属コーチの指導等による交流会を開催する。

① 徳島ヴォルティスサッカースクール(第1回)

日程:令和4年9月25日

会場:鳴門・大塚スポーツパーク内第2陸上競技場

参加者:特別支援学校生徒、障がい児入所施設児童、保護者、支援員等 20名

② 徳島ヴォルティスサッカースクール(第2回)

日程:令和4年11月27日

会場:鳴門・大塚スポーツパークアミノバリューホールサブアリーナ

参加者:放課後等デイサービス利用児童、県内サッカー少年団チーム選手 101名



③ キッズフェスティバル

日程:令和4年11月27日

会場:鳴門・大塚スポーツパークアミノバリューホールメインアリーナ

参加者:放課後等デイサービスサッカーチーム、県内サッカー少年団チーム選手
71名



徳島ヴォルティスサッカースクールは、プロのコーチがサッカーの楽しさを教えてくれる良い機会であり、小学生からの障がい児との関わりは偏見や差別を除去するためにも必要であるが、交流の機会が少ない現状がある。コミュニケーションツールとしてサッカーはわかりやすく、仲間同士助け合うことが比較的簡単にできることもあり、障がい理解の促進にも繋がることを期待できる。

④ インクルーシブフットサル交流大会

日程：令和5年3月11日

会場：とくぎんトモニアリーナ

参加者：特別支援学校サッカー部メンバー、ソーシャルフットボールメンバー、徳島大学フットサル部、県リーグチーム所属メンバー、医療機関職員等 40名



大学生や地域リーグに所属する選手との交流試合を実施した。レベルの高い試合を体験する事ができ、今後のチームでのレベルアップにも繋がる良い交流会となった。

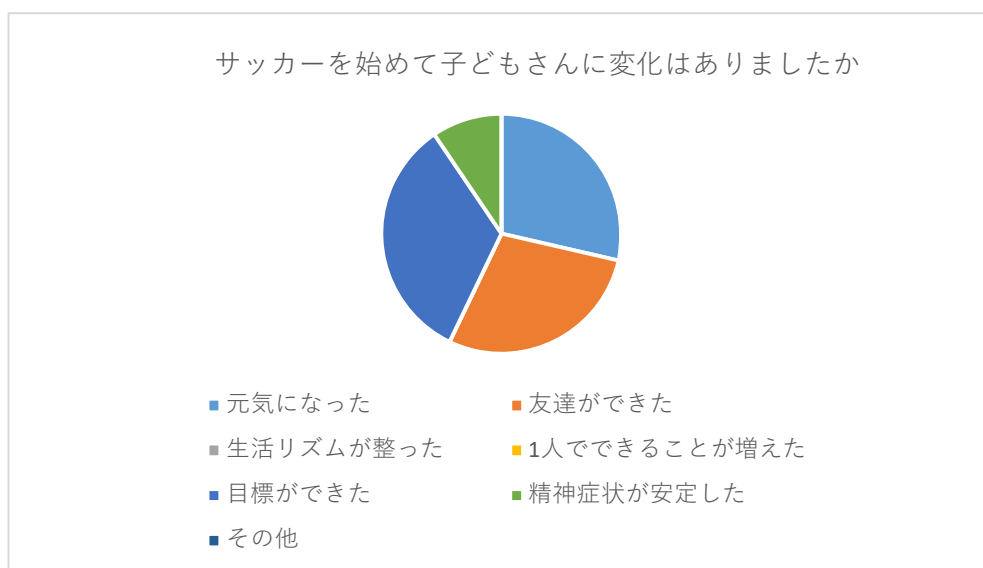
後半は、まぜこぜで4チームを編成し、総当たりのリーグ戦を実施した。障害の有無、レベルの差にも関わらず、チームメイトとして、サポートし合いながら戦うことでコミュニケーションを図ることができた。

IV. アンケート

保護者へのアンケート

1. サッカーを始めて子供さんに変化はありましたか。

Q1	件数
1 元気になった	6
2 友達ができる	6
3 生活リズムが整った	0
4 1人でできることが増えた	0
5 目標ができる	7
6 精神症状が安定した	2
7 その他	0

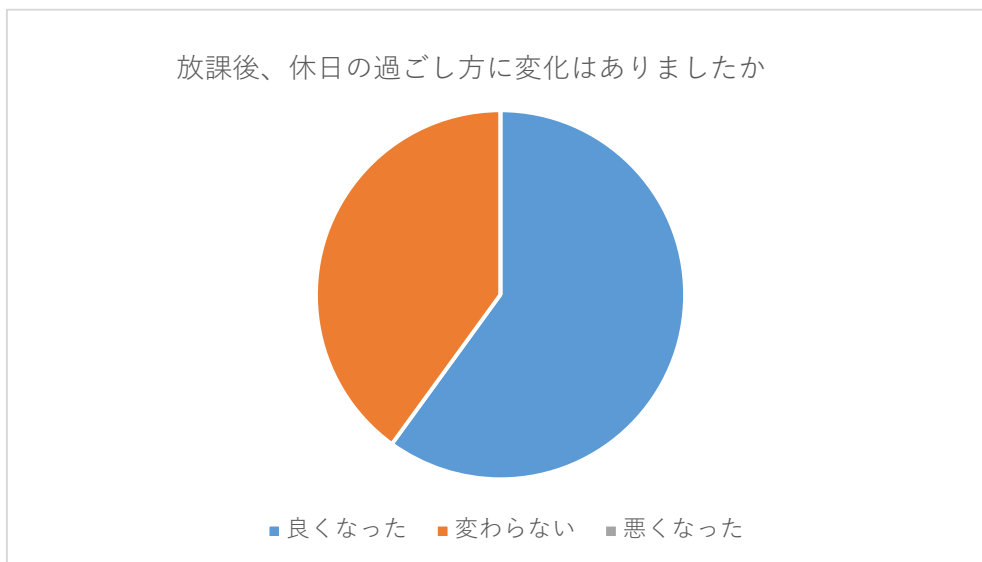


※具体的な変化

- ・ 自主練をするようになった
- ・ 以前は家にこもって過ごすことがほとんどだったが、家の周囲で遊ぶようになった
- ・ 練習を楽しみにしている
- ・ サッカーに興味を持った

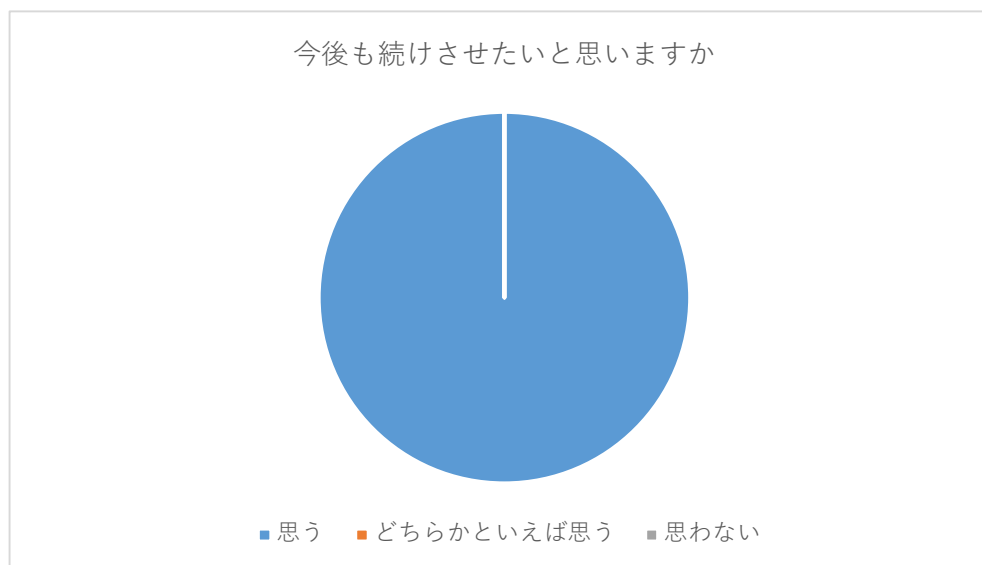
2. 放課後、休日の過ごし方に変化はありましたか。

Q2		件数
1	良くなった	6
2	変わらない	4
3	悪くなった	0



3. 今後も続けさせたいと思いますか。

Q3		件数
1	思う	10
2	どちらかといえば思う	0
3	思わない	0



Q4 コーチ、スタッフに望むこと

- ・家で練習できるように課題を出してほしい
- ・会話をもっとしてほしい
- ・子の対応で困ったことがあれば教えてほしい

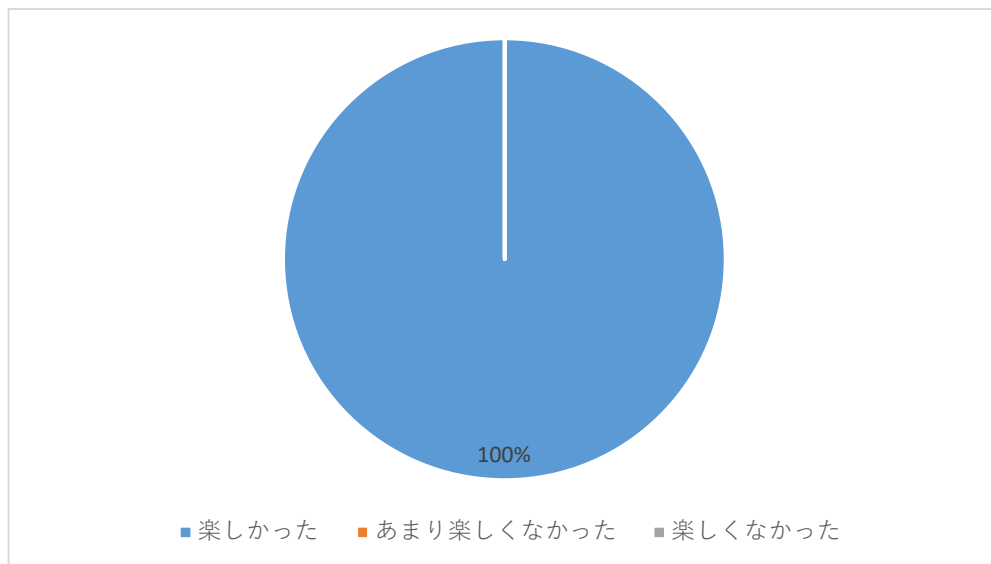
Q5 ご意見・ご感想

- ・練習日が楽しみになっている
- ・練習時間が増えてもいい
- ・サッカーを始めて自信がついた
- ・スポーツに興味を持つようになった
- ・サッカー教室が居場所になっている
- ・移動支援があると助かる
- ・家族で参加するイベントが増えたらうれしい
- ・練習の朝は笑顔で学校へ行くようになった
- ・サッカーの経験がなくても優しく根気よく指導してくれた
- ・参加できるスポーツ教室がなかったが、参加先ができてよかった

生徒へのアンケート

1. 参加して楽しかったですか

Q1		件数
1	楽しかった	11
2	あまり楽しくなかった	0
3	楽しくなかった	0

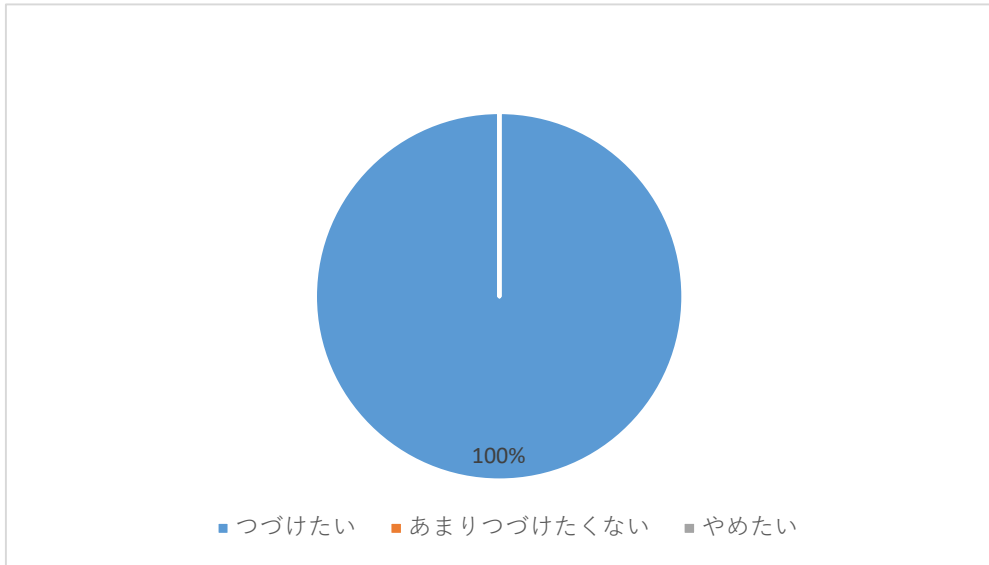


どんなことが楽しかったか

- ・試合が楽しかった
- ・みんなと協力してプレーできたこと
- ・シュートが決められたこと
- ・全部

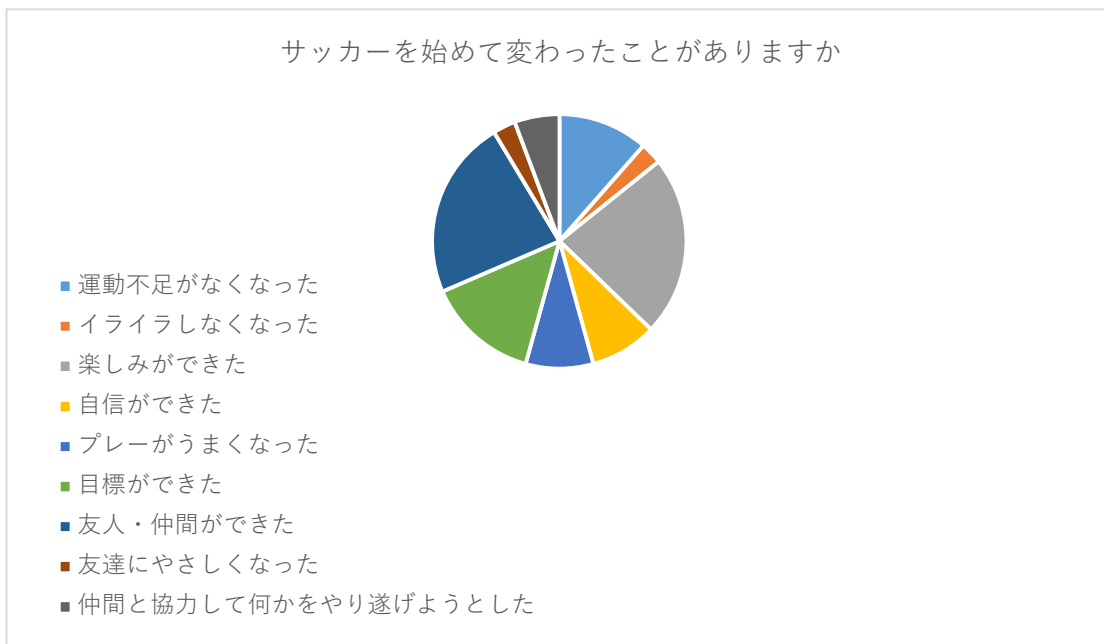
2. これからも続けたいと思いますか。

Q2		件数
1	つづけたい	11
2	あまりつづけたくない	0
3	やめたい	0



3. サッカーをはじめて変わったことがありますか。

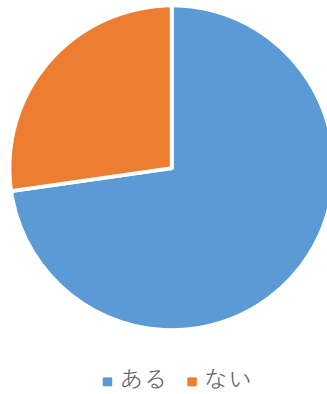
Q3	件数
1 運動不足がなくなった	4
2 イライラしなくなった	1
3 楽しみができた	8
4 自信ができた	3
5 プレーがうまくなった	3
6 目標ができた	5
7 友人・仲間ができた	8
8 友達にやさしくなった	1
9 仲間と協力して何かをやり遂げようとした	2



4.これまでにサッカーのほかにスポーツをつづけたことがありますか。

Q4		件数
1	ある	8
2	ない	3

これまでにサッカーのほかにスポーツを続けたことがありますか



どんなスポーツをしているか

- ・水泳
- ・陸上
- ・卓球
- ・バスケ

サッカーでやってみたいこと

- ・色々なチームとサッカーがしたい

令和4年度スポーツ庁委託事業

「障害者スポーツ推進プロジェクト」

(特別支援学校運動・スポーツ活動促進等事業)

令和5年3月発行

発行：一般社団法人徳島県サッカー協会